

通信課題(課題解答用紙)

科目 2(項目 2-1、2-2)

問 1	人間の尊厳と自立について、誤りを一つ選びなさい
1.	高齢者が望むような生活を送れるようにするために社会的な支援が必要である。
2.	日常生活の自立を支援することは、高齢者の尊厳を保持することになる。
3.	自立支援にあたっては、常にエンパワメントの視点をもつことを忘れてはいけない。
4.	自立という考え方の基本には、個人を尊重する考え方がある。
5.	自立の概念には、経済的自立は含まれない。
問 2	QOLについて、誤りを一つ選びなさい
1.	「QOL」とは、生活の質と訳される。
2.	介護職は、利用者の QOL の向上を目指した介護を提供する必要がある。
3.	充実した質の高い生活は、I C I D H の理念を踏まえ、社会生活への活動・参加の機会が保障されることで実現する。
4.	QOL を向上させるために、豊かな人間関係の向上が必要である。
5.	生活の質を担保するためには、住環境を含めて生活環境を整えることも大切である。
問 3	高齢者虐待防止法について、誤りを一つ選びなさい
1.	この法律は、在宅で高齢者を養護、介護する家族や親族等による虐待のみを対象としたものである。
2.	この法律では、殴る、蹴る、薬漬けにするなどが身体的虐待として定められている。
3.	この法律は、65 歳以上の高齢者を対象にしたものである。
4.	この法律では、言葉での罵倒、無視などが心理的虐待として定められている。
5.	この法律では、排せつの失敗の見せしめのために下半身を露出させたままにする行為などが性的虐待として定められている。

問 4	個人の尊厳と法制度について、誤りを一つ選びなさい
1.	日本国憲法第 25 条第 1 項において、幸福追求権を保障している。
2.	介護保険のサービス事業者に対し、要介護者などの人格尊重義務と忠実義務が定められている。
3.	介護保険制度の目的は、自立を支援し、高齢者の尊厳のある暮らしの実現を支援することにある。
4.	日本国憲法第 13 条は、個人の尊厳を憲法の基本的な価値として定め、個人主義をその基本原理とすることを宣言している。
5.	憲法の個人の尊厳の原理および幸福追求権から、自己決定権が導かれる。
問 5	ノーマライゼーションについて、誤りを一つ選びなさい
1.	高齢者や障害者が普通の人と同じように、普通に生活できるようにすること、ないしはそのようにすべきだとする思想を「ノーマライゼーション」という。
2.	ノーマライゼーションに関連した概念として、ユニバーサルデザインがある。
3.	ノーマライゼーションの思想は、人間の尊厳を基本としている。
4.	スウェーデンのニイリエによって、ノーマライゼーションの原理が具体化された。
5.	ノーマライゼーションの思想は、障害者問題を契機にアメリカで生まれた。
問 6	身体拘束について、誤りを一つ選びなさい
1.	切迫性、非代替性、一時性の三つの要件すべてを満たし、かつ、それらの要件等の手続きがきわめて慎重に実施されている場合に限り、身体拘束が認められる。
2.	身体拘束の身体的弊害として、褥瘡の発生、関節の拘縮や筋力低下などを引き起こす危険がある。
3.	身体拘束を行った場合、記録には残さない。
4.	自分で降りられないようにベッドを柵（サイドレール）で囲むのは、身体拘束となる。
5.	施設や病院における身体拘束も、身体的虐待もしくは放棄・放任の一種とされている。

問 7	自立支援について、誤りを一つ選びなさい
1.	自律には、自分自身の規範に従って生活するという意味があり、介護の分野では、身体機能や ADL が自立していなくても、選択権が尊重され自分の意思で行動や生活ができることと解
2.	介護の分野では日常生活を営むうえでの基本動作ができるかどうかの評価として、「IADL（日常生活動作）の自立」という言葉が用いられる。
3.	介護における自立支援には、自立と自律の両方が包含されている。
4.	介護を行ううえでは、その人の心身機能を考慮した個別性に合わせたはたらきかけ方が重要である。
5.	自分の生活を自らが組み立て主体的に暮らすということが、自律的な生き方として尊重される。
問 8	介護予防について、誤りを一つ選びなさい
1.	予防重視、重度化防止が制度として位置づけられたのは、2005（平成 17）年の介護保険法の改正からである。
2.	介護予防における一次予防は、主として活動的な状態にある人を対象に、生活機能の維持・向上に向けた取り組みをいう。
3.	2040 年に向けた「地域包括ケアシステムで取り組むべき方向」は、「予防」が中心的課題になっている。
4.	2012（平成 24）年度からの「介護予防・日常生活支援総合事業」は、介護予防と日常生活への支援を切れ目なく提供するしくみづくりとして創設された。
5.	介護予防が重視される背景には、要介護認定者に占める要支援者の割合が、徐々に減少していることがある。
問 9	自立支援について、誤りを一つ選びなさい
1.	個々人の自立への意欲を高める支援では、その人の心身機能を考慮した個別性に合わせたはたらきかけ方が重要である。
2.	自立とは、「自分の力で独立すること」を意味する。
3.	自立支援における介護職の基本姿勢は、介護職の価値観の尊重である。
4.	それぞれの能力に応じた自立への支援とは、利用者が行う生活行為の一連の過程のなかで、どこに生きづらさや不自由があるのかを考え、見極めることである。
5.	私たちの日常生活は、ADL の自立だけでは「自立した日常生活」の維持・継続が可能になったとはいえない。

問 10	介護予防について、誤りを一つ選びなさい
1.	介護予防とは、厚生労働省のマニュアルでは、「要介護状態の発生をできる限り防ぐ（遅らせる）こと、そして要介護状態であってもその悪化をできる限り防ぐこと、さらには軽減を目指すこと」と定義されている。
2.	2017（平成 29）年度末までにすべての市町村が、①NPO、民間企業、住民ボランティアによる介護予防・生活支援サービス事業と、②一般介護予防事業の二つの事業からなる介護予防・日常生活支援総合事業を実施することになった。
3.	自立した生活を維持・継続していくためには、生活習慣病予防と介護予防を地域のなかで切れ目なく総合的に展開することが大切である。
4.	障害の有無、年齢等にかかわらず、一人ひとりが地域や社会に参加し、地域でつながることも介護予防であることを意識することが大切である。
5.	介護予防の最大の焦点は、「利用者に代わって介護職が行うこと」である。

通信課題(課題解答用紙)

科目 3、4(項目 3-1、3-2、3-3、4-1、4-2、4-3)

問 1	介護環境に関する説明について、誤りを一つ選びなさい
1.	居宅は、家族がこれまでに培ってきた生活習慣や生活のリズムが尊重される生活の拠点のため、利用者の生活習慣や生活リズムを尊重し、それに合わせることを求められる。
2.	介護環境とは、利用者が介護を受ける環境、生活の拠点のことをいう。
3.	介護保険制度に基づく介護サービスは、居宅サービス、施設サービスに大別される。
4.	施設は、一定のルールに沿ったサービス提供については介護手順等を標準化できるが、居宅の場合、利用者の心身状況だけでなく、介護者の有無、導入されている介護用具により、介護上の課題はさまざま、利用者によって手順や方法は異なる。
5.	施設は、入所者すべての共同生活の場であるとともに、その環境はサービス提供側が主体的に整備できる。
問 2	介護職に求められる視点について、誤りを一つ選びなさい
1.	主観的で科学的根拠に基づいた思考過程の展開を、介護過程という。
2.	科学的根拠（エビデンス）のある介護を展開できるのが、専門職としての介護職である。
3.	科学的根拠に基づいた介護実践には、重度化防止・遅延化の視点が重要である。
4.	介護職は、チームケアの重要性を認識し、専門的な知識や技術を活かしながら根拠に基づいた介護サービスを提供する。
5.	尊厳のある自立した日常生活を奪うことは、尊厳のある生活を支える専門職である介護職の任務を果たしていないといえる。
問 3	多職種連携について、誤りを一つ選びなさい
1.	介護職は、利用者の生活上の変化などを確認し、状態・変化がみられたことを医療職にも報告し、情報を共通認識することが必要である。
2.	介護職が医療職と連携し、利用者の情報を得ることは、個人情報保護に抵触するため行わない。
3.	効果的なサービスを利用者に提供するためには、多職種連携は欠かせない。
4.	介護職が医療職と連携する場合、利用者の望む生活を支援するために、同じチームの一員であるという考え方が必要である。
5.	介護福祉士は、社会福祉士及び介護福祉士法において、「福祉サービス関係者等との連携を保たなければならない」と明記されている。

問 4	介護職に求められる社会的責任と倫理について、誤りを一つ選びなさい
1.	介護職は、人の生命や生活にかかわり、人に対して大きな影響をもった職業である。
2.	介護サービス事業者および従事者は、法に基づくサービスを提供しているため、常に国民に対して公正、適正なサービスの提供が求められる。
3.	専門職と呼ばれる職業人は、もっている知識・技術を善用することが求められている。
4.	介護サービスは、特定の高齢者や社会的弱者だけが受けられるサービスである。
5.	介護職が、専門職としてもっている知識・技術を悪用した場合、社会からの信用を失う。
問 5	介護職に求められる利用者・家族への責任について、誤りを一つ選びなさい
1.	介護職は、プライバシーの保護・尊重の視点が重要である。
2.	介護サービスは、利用者やその家族のために行われるものであり、介護職は常にその責任を負わなければならない。
3.	介護職は、食事の時間が経過したら、まだ食べ終わっていなくても膳を下げるのが仕事である。
4.	介護サービスにおいて、利用者が適切にサービスを利用できるような情報の提供が重要である。
5.	介護職は、利用者およびその家族に対して、公平・中立の立場で、必要な情報をわかりやすく提供する役割も担っている。
問 6	倫理、規範について、誤りを一つ選びなさい
1.	社会福祉士及び介護福祉士法では、倫理に対する規定が設けられていない。
2.	倫理には、自律的規範と他律的規範がある。
3.	他律的規範とは、その職業に対して期待する規範である。
4.	倫理とは、自律的規範と他律的規範の両方が重なり合い、求められるものである。
5.	介護福祉士の倫理として、信用失墜行為の禁止という規定がある。

問 7	リスクマネジメントについて、誤りを一つ選びなさい
1.	さまざまな情報から、必要なリスク情報を抽出する作業を、モニタリングという。
2.	事故の要因を把握し、対策立案を行う過程をリスクマネジメントという。
3.	一つの重大な事故の背景には、29 の軽微な事故があり、その背景に 300 のインシデント（ヒヤリ・ハットなど）があるとする法則を、ハインリッヒの法則という。
4.	寝たきりの人のリスクには、褥瘡、栄養障害、誤嚥があげられる。
5.	リスクマネジメントでは、リスクコントロールをした結果、リスクが軽減、または回避されたのかなどの評価を行う。
問 8	リスクについて、誤りを一つ選びなさい
1.	リスクは、サービスを提供するすべての過程に存在する。
2.	リスクは、常に潜在化し、常に存在していると理解することが介護職には求められる。
3.	リスクとは、損失、または損失の危険性、危険性そのものを意味している。
4.	リスク情報は、現場に返さない。
5.	リスクは、行き違いや書類の不備でも発生する。
問 9	感染対策について、誤りを一つ選びなさい
1.	結核菌や麻疹ウイルスは、飛沫核という小さな核の中で生き続けており、空気中を漂っているこの飛沫核を吸い込むことで感染することを、空気感染という。
2.	接触感染の防止には、感染経路の主役である「手」を必要なときに、きちんと洗い、消毒することがもっとも大切である。
3.	菌やウイルスが感染源から人へうつる道筋を、感染経路という。
4.	一般の風邪やインフルエンザは、血液感染でうつる。
5.	感染経路には、「接触感染」、「空気感染」、「飛沫感染」がある。

問 10	介護保険制度の目的等について、誤りを一つ選びなさい
1.	介護保険制度の目的は、要介護・要支援高齢者が尊厳を保持し、その有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう、必要な保健医療サービスおよび福祉サービスを一体的・総合的に提供することにある。
2.	介護保険法では、国民の努力義務を定めている。
3.	介護保険制度は、「国民の共同連帯の理念」に基づく制度である。
4.	介護保険制度では、尊厳の保持と自立支援を支えるため、保健・医療・福祉の専門家が身近な地域で高齢者やその家族を支援する仕組みとしてリスクマネジメントが導入された。
5.	介護保険法では、国民に対し「共同連帯の理念に基づき、介護保険事業に要する費用を公平に負担する義務」を定めている。
問 11	介護保険の保険給付等について、誤りを一つ選びなさい
1.	介護保険法に基づく保険給付には、大きく分けると介護給付、予防給付、市町村特別給付の3種類がある。
2.	施設サービス（入所系サービス）は、要介護者のみが利用できる。
3.	地域支援事業とは、被保険者の要介護状態等となることの予防または要介護状態等の軽減・悪化の防止および地域における自立した日常生活の支援のための事業をいう。
4.	地域密着型サービスとは、住み慣れた地域で、地域の特性に応じた多様で柔軟なサービスが利用できるようにするためのサービス体系のことをいう。
5.	入所系サービスうち、特別養護老人ホームは、原則として要介護1以上の者に利用が制限されている。
問 12	ケアマネジメントについて、誤りを一つ選びなさい
1.	要支援認定を受けた利用者が介護予防サービスを利用する場合、地域包括支援センターがケアマネジメントを行う。
2.	小規模多機能型居宅介護およびその他の居住系サービスは、事業所・施設内にケアマネジメント機能を内包している。
3.	介護保険制度では、ケアマネジメントを担う専門職として、医療ソーシャルワーカーがいる。
4.	要介護認定を受けた利用者が居宅サービスを利用する場合、指定居宅介護支援事業所がケアマネジメントを行う。
5.	介護保険制度におけるケアマネジメントとは、自立支援を目指すうえで、もっとも重要な手段として位置づけられている。

問 13	厚生労働省の通知により、原則として医行為ではないとされる行為について、誤りを一つ選びなさい
1.	水銀血圧計による血圧測定
2.	一包化された内用薬の内服
3.	市販浣腸器の使用
4.	点眼薬の点眼
5.	湿布の貼付
問 14	連携について、誤りを一つ選びなさい
1.	在宅ケアの場合、地域にある複数の在宅ケアサービス事業所が一体となって連携の仕方を検討する。
2.	療養者の症状や希望によって行われるケアが異なるため、療養者のためにつくられるケアチームは、それぞれ異なる。
3.	コミュニケーションは、ケアにおける連携で重要である。
4.	在宅ケアや施設ケアでは、同職種との連携は不要である。
5.	施設や自宅を問わず、医療管理を必要とする高齢者へのケアは、ここ数年で急速にニーズが高まっている。
問 15	リハビリテーション職種との連携について、誤りを一つ選びなさい
1.	転倒リスクを減らすためには、利用者の筋力や感覚、認知機能などの心身機能・身体構造、ADL、IADL の評価を行っているリハビリテーション専門職との密な連携が必要である。
2.	生活機能の改善を目的とした、心身機能・身体構造、活動・参加のバランスのとれたリハビリテーションの実施の必要性が、厚生労働省より示された。
3.	「寝たきり」は予防できるという調査結果からも、介護職、リハビリテーション専門職、看護職、家族、利用者を含めた総合的な取り組みが必要なことがわかる。
4.	脳卒中など発症後、急性期、回復期、維持期・生活期という区分を経るが、介護保険制度は主に急性期を担う。
5.	一般的にリハビリテーションというと関節運動や筋力、歩く等の訓練と理解されるが、ICF の活動と参加も含めた包括的なサービスを指す。

問 16	医行為について、誤りを一つ選びなさい
1.	医行為とは、「医師が行うのでなければ保健衛生上危害を生ずるおそれのある行為」と解釈される。
2.	厚生労働省の通知によって、原則として「医行為」ではない行為の見解が示されている。
3.	医師、歯科医師、看護師等の免許をもたない者による医業は、法令によって禁止されている。
4.	在宅療養において、本人自らが注射をしたり、家族にしてもらったりすることは、医業にあたる。
5.	実質的違法性阻却の考え方に基づき、介護職等が行ってきた「医療的ケア」の一部が法制化され、介護職等は一定の要件のもと、喀痰吸引および経管栄養を業として行うことができるよう
問 17	障害の理念と各制度の説明について、誤りを一つ選びなさい
1.	1981 年の国連の「国際障害者年」では、「完全参加と平等」がテーマとして掲げられた。
2.	障害者権利条約は、障害者の人権や基本的自由の享有を確保し、障害者の固有の尊厳の尊重を促進するため、障害者の権利を実現するための措置等を規定している。
3.	「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」、いわゆる、障害者差別解消法は、2006 年に制定された。
4.	障害者雇用促進法は、民間企業に障害者を雇用する雇用率達成を義務づけ、雇用率未達成の場合の納付金制度により障害者雇用を促進する。
5.	障害者基本法は、心身障害者対策基本法を全面改正する形で制定された。
問 18	障害者総合支援法について、誤りを一つ選びなさい
1.	障害者総合支援法には、障害者基本法の理念と共通の基本理念が設けられている。
2.	障害者総合支援法が規定する給付や事業として、①義務的経費である自立支援給付と②裁量的経費である地域生活支援事業がある。
3.	障害者総合支援法の対象となるのは、障害児のみである。
4.	介護給付には 9 種類のサービスがあり、これらは訪問系サービス、日中活動系サービス、居住系サービスに分かれている。
5.	補装具を必要とする障害者等の補装具の購入または修理に対して、補装具費が支給される。

問 19	個人情報保護法について、誤りを一つ選びなさい
1.	個人情報の外部流出、目的外利用、不正な取得があった場合、違反の程度によって行政処分が下される。
2.	ケースカンファレンスや研修などで利用者情報を匿名化して使用することは、個人情報保護法の規制の対象になる。
3.	個人情報といえども、高齢者虐待防止法に基づき、高齢者虐待にかかる通報等を市町村に行う場合は、第三者への提供が可能である。
4.	この法律は、個人情報を保護、活用するルールを規律したものである。
5.	個人情報取扱事業者が、個人データを第三者に提供（開示）する場合、事前に本人の同意を得ることが原則である。
問 20	障害者基本法について、誤りを一つ選びなさい
1.	現在の障害者基本法は、障害者総合支援法を改正する形で登場した。
2.	2011 年の改正内容のうち、目的や定義規定には、障害者権利条約が規定する社会モデル等が反映されている。
3.	1993 年、障害者の自立と社会参加を一層促進するために、心身障害者対策基本法が改正された。
4.	2004 年の改正で、障害者の日に代えて、障害者週間が設定されることになった。
5.	2004 年の改正で、基本的理念として障害者に対して障害を理由として差別その他の権利利益を侵害する行為をしてはならない旨が規定された。

通信課題(課題解答用紙)

科目 5,6(項目 5-1、5-2、6-1)

問 1	コミュニケーションに関する説明について、誤りを一つ選びなさい
1.	コミュニケーションは、他者との間で情報を交換（伝達）することによって、相互に理解を深めることを目的にしている。
2.	利用者との信頼関係を築いていくためには、毎回の援助開始時のあいさつや身近な話題、思いやりの言葉かけなどによるコミュニケーションの積み重ねが大切である。
3.	コミュニケーションで取り扱われる情報には、客観的な情報がある。
4.	コミュニケーションにおける情報交換は、言語と言語ではないものを仲立ちに行われるが、言葉や文字等を用いたコミュニケーションを非言語的コミュニケーションという。
5.	コミュニケーションで取り扱われる情報には、主観的な情報がある。
問 2	家族とのコミュニケーションについて、誤りを一つ選びなさい
1.	家族介護者の介護は、身体的労苦を伴う 1 日 24 時間、365 日昼夜を問わず途切れなく続く。
2.	認知症の人の家族介護者のたどる受容段階として、四つの心理ステップがある。
3.	家族介護者の支援サービスとして、身体的休養を取るためだけでなく、こころの支援も目指したレスパイトケアがある。
4.	家族がたどる四つの心理ステップの内、『認知症という病気を頭の中で理解してはいるものの、心身共に疲労困憊し、絶望感に陥りやすいとき』は、戸惑い・否認のステップである。
5.	家族介護者が遭遇しやすい精神状態として、ストレス反応、不安障害、離人感、虐待、自殺・心中や自傷行為などがある。
問 3	言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーションについて、誤りを一つ選びなさい
1.	介護される人が言語障害者の場合、介護職は残されたコミュニケーションの手段を可能な限り有効に用いて意思のやり取りを行うよう努める。
2.	視覚障害者の視覚を補うものの一つとして、触覚、振動感覚があるため、手で触れ、大きさ、形、硬さ、振動などを経験できるように導くようにする。
3.	言語障害者とのコミュニケーションでは、利用者の手が動かない場合は、文字盤を介護職が指で指し、瞬きや唇の動きで意思を伝えてもらい、コミュニケーションをとることも可能である。
4.	年齢に関係する聴力障害は、固定化された障害である。
5.	言語障害者のなかには、話せるが発音が不鮮明であるため普通の会話に支障をきたす人も多くいるため、介護職は、傾聴の心で聞き取るようにする。

問 4	情報と記録について、誤りを一つ選びなさい
1.	書いてあることだけに頼らずに、記録されていることの裏づけを行い、正確な情報かを確認することも大切である。
2.	連続性や継続性がある介護の情報に関して、情報を共有するためには口頭で伝えるだけでなく、記録として文書でも正しく残すことが大切である。
3.	他職種が記録した記録物も、それぞれの専門的立場から記録されたものとして、大切な情報である。
4.	利用者の情報は、コミュニケーション、観察、記録物などから収集することができ、ICIDH の視点で収集した情報を整理すると、不足した情報に気づくことができる。
5.	記録物から、利用者の情報を得る場合もある。
問 5	記録について、誤りを一つ選びなさい
1.	記録は、情報の伝達や保管を目的としている。
2.	介護現場における記録は、トラブルが生じた際の証拠書類にはならない。
3.	介護記録には、利用者の個人情報として生活歴や病歴などの情報、日々の生活記録が記されている。
4.	記録された内容は、チームケアでは情報を共有するためにも活用される。
5.	正確に記録することが必要である。
問 6	記録について、誤りを一つ選びなさい
1.	施設や事業所における記録は、利用者の立場に立って、利用者の人権に配慮して書くことが求められている。
2.	施設や事業所における記録は、利用者の生活の様子が正確にわかるように書くことが求められている。
3.	2005（平成 17）年以降、記録は、利用者や家族のためのものであるという認識に変化した が、それより以前は、記録はスタッフで情報を共有するためという認識で記録されていた。
4.	記録を書くときは、5W1H の六つの要素に沿って伝えたい内容を整理・報告すると情報をわかりやすく伝えることができる。
5.	2005（平成 17）年からスタートしたマイナンバー制度では、「記録の開示請求があれば開示しなければならない」と定められている。

問 7	記憶について、誤りを一つ選びなさい
1.	「ワーキングメモリ」は、加齢に伴い大きく低下する。
2.	「意味記憶」は、老化によってあまり低下しない。
3.	「エピソード記憶」は、老化に伴い低下しやすい。
4.	「手続き記憶」は、加齢によって大きく低下する。
5.	高齢者の「自伝的記憶」は、最近の出来事に関することがもっとも多く話される。
問 8	加齢と知能の変化について、誤りを一つ選びなさい
1.	過去に経験で得た知識を活用して問題解決する知能を結晶性知能という。
2.	その場で新しい問題を解決する知能を流動性知能という。
3.	結晶性知能は60代まで上昇し、老年期の前期での低下は緩やかである。
4.	結晶性知能は知識や文化の影響を受けながら、経験・学習によって形成され続ける。
5.	老年期には流動性知能の活用によって、加齢による結晶性知能の低下を補っている。
問 9	老化について、誤りを一つ選びなさい
1.	医学用語でいう老化とは、「歳をとるとともに身体機能がだんだん衰えること」である。
2.	ほかの動物に比べて、人間の高齢期は特別に長い。
3.	老化は病気ではなく、誰にでも起こる生命現象の一つである。
4.	老化の学説の一つに、生まれたときにすでに遺伝子に老化の過程が書き込まれているという説がある。
5.	老化により、さまざまな環境変化に臨機応変に対応する能力が向上する。

問 10	高齢者の適応機制（防衛機制）について、誤りを一つ選びなさい
1.	欲求不満による緊張状態を緩和し、心理的に安定するためのはたらきを適応機制（防衛機制）という。
2.	幼児期のような心の状態に戻り、依存的になることを「退行」という。
3.	受け入れがたい出来事を事実と認識せず、なかったかのようにふるまうことを「否認」という。
4.	自分の劣等感に対して、ほかの側面で優越感をもつことができるようにすることを「補償」という。
5.	社会的に受け入れられない欲求を、仕事など社会が受け入れられるものに向けることを「合理化」という。

通信課題(課題解答用紙)

科目 7、8、9(項目 7-1、7-2、8-1、8-2、8-3、9-1)

問 1	認知症ケアの視点について誤りを一つ選びなさい
1.	認知症の人の病識の程度をアセスメントしてケアする必要がある。
2.	認知症になると判断力の低下により自己決定権が奪われることが増えるため、尊厳への配慮が必要となる。
3.	認知症になってもQOLの高い生活を送るためのケアが望まれる。
4.	認知症の人を大切にし、言うとおりに何でもしてあげるケアが望ましい。
5.	認知症の人の残存機能を活用して、生活機能を高めるケアが望まれる。
問 2	パーソン・センタード・ケアの考え方について、誤りを一つ選びなさい
1.	認知症の人が一人の人として、周囲に受け入れられ、尊重されることが大切である。
2.	認知症の本人を一人の人として中心におき、周囲の人が一方的に献身的に支援するべきである。
3.	介護者が認知症の人の視点に立って言動の背景を推測する認知的共感が重要である。
4.	認知症の人の行動は脳病変だけでなく、さまざまな要因との相互作用で生じる。
5.	BPSDは認知症の人の心の表れで、その人なりの考えで行動しているととらえる。
問 3	認知症ケアの視点について、誤りを一つ選びなさい
1.	認知症の人は自分の認知機能が低下していることを自覚していることが多い。
2.	認知症になると判断力が低下するため、自己決定の支援が重要になる。
3.	認知症になっても一人の人間として大切にされ、尊厳が守られることが必要である。
4.	認知症の人にもなるべく自立・自律を目指したケアでQOLの高い生活を支えることが望まれる。
5.	認知症になってもできることに着目し、残存機能を活用して生活機能を高めるケアが望まれる。

問 4	パーソン・センタードケアの考え方について、誤りを一つ選びなさい
1.	認知症の人を介護者が効率よくケアするための考え方である。
2.	人の個性や尊厳に基礎を置く、人間モデルである。
3.	認知症になっても残存能力があり、脳には回復力もあると考える。
4.	認知症の人とケアする人が互いに一人の人として互いを尊重するという考え方である。
5.	ケアする側もケアされる側もともによい状態になることが必要だと考える。
問 5	認知症の定義・診断基準について、誤りを一つ選びなさい
1.	介護保険法では、脳の機能的変化により日常生活に支障が生じる程度に認知機能が低下したものとされている。
2.	I CD-10 では「意識障害ではないこと」も基準とされている。
3.	I CD-10 では「生活の支障を起こす症状が6か月以上継続していること」も基準とされている。
4.	DSM-5では記憶障害があることを必須としていない。
5.	DSM-5では「自立した生活に困難を生じたら認知症」と明記している。
問 6	レビー小体型認知症の診断基準について、誤りを一つ選びなさい
1.	症状の変動
2.	リアルな幻視
3.	常同行動
4.	パーキンソニズム
5.	レム睡眠行動障害

問 7	認知症の利用者の健康管理について、誤りを一つ選びなさい
1.	水分摂取が不足すると認知機能が低下することがあるため、摂取する水分は多いほどよい。
2.	便秘があると不機嫌になったりして暴言などのB P S Dにつながることもある。
3.	認知症では食物を認知できなくなる場合があるため、食器やよそい方に配慮する。
4.	運動は認知症の進行を遅らせ、廃用症候群の防止にもつながる。
5.	認知症高齢者にはしばしば夜間頻尿がみられる。
問 8	認知症の薬物療法について、誤りを一つ選びなさい
1.	ドネペジルの副作用で易怒性が出ることがある。
2.	ガラントミンの副作用で胃腸障害が出ることがある。
3.	メマンチンは易怒性や過活動を抑えるはたらきがある。
4.	認知症の治療薬は根本的治療薬ではなく、病気の進行を少し遅らせるためのものである。
5.	B P S Dの治療は薬物療法が基本である。
問 9	I C Fについて、誤りを一つ選びなさい
1.	I C Fは世界保健機関（WHO）が発表した。
2.	I C Fでは「障害」を身体機能と背景因子の相互作用としてとらえている。
3.	I C Fでは、その人のできる面を強調している。
4.	障害の発生には個人の生活背景や、環境の影響が大きい。
5.	I C Fでは人間の健康状態に関するすべてのことを対象としている。

問 10	ノーマライゼーションの考え方について、誤りを一つ選びなさい
1.	障害のある人もない人も、住み慣れた地域で暮らし、共に生きることこそノーマルであるという考え方である。
2.	障害のある人と障害のない人は異なる条件の下に置かれるべきという考え方である。
3.	障害者を施設に収容し、地域から隔離するのではなく、地域に受け入れていくという考え方である。
4.	すべての人が平等であるという平等主義の原理に立っている。
5.	わが国では障害者基本計画の中心理念として位置づけられている。
問 11	障害者の定義について誤りを一つ選びなさい
1.	身体障害があるもの
2.	知的障害があるもの
3.	精神障害があるもの
4.	その他の心身の機能の障害があるもの
5.	一時的に日常生活または社会生活に制限を受ける状態であるもの
問 12	聴覚障害について、誤りを一つ選びなさい
1.	伝音性難聴の例には中耳炎による難聴がある。
2.	感音性難聴の例には加齢による老人性難聴がある。
3.	伝音性難聴と感音性難聴が合併した難聴を混合性難聴という。
4.	感音性難聴は補聴器の音を大きくすれば解決する。
5.	老人性難聴は高音域の難聴から始まる。

問 13	音声・言語障害について、誤りを一つ選びなさい
1.	構音障害では、発音が不明瞭になるため、コミュニケーションに支障をきたす。
2.	吃音は発症時期も障害が完治した時期も本人が自覚しない障害である。
3.	吃音の人はリラックスできる環境ではどもらなくなる。
4.	失語症は脳卒中など、脳が何らかの原因で傷つくことによって起こる。
5.	失語症は話し言葉だけでなく、読んだり書いたりすることにも支障をきたす。
問 14	知的障害について、誤りを一つ選びなさい
1.	知的障害の判定には知能指数と日常生活能力の二つの基準が用いられる。
2.	軽度や中度の知的障害者は、簡単な文字の読み書きや言葉でのコミュニケーションが可能な人が多い。
3.	知的障害の原因には生理型、病理型、心理・社会型の三つがある。
4.	ダウン症は腎臓に先天的な疾患がある場合が全体の4割程度を占める。
5.	知的障害者は多くの場面で権利侵害を受けやすい状況にある。
問 15	障害の受容過程について、誤りを一つ選びなさい
1.	「心理的ショック段階」は発病・受傷の恐怖感、無力感により思考が混乱した状態をいう。
2.	「障害否認段階」は身体障害を認めない、大したことはないという態度をとる段階である。
3.	「うつ反応段階」は自分の障害を客観的にみられるようになり、悲嘆やうつに感情を支配される段階である。
4.	「自立への抵抗段階」は、機能回復が一定レベルに達し、自立と依存の間で揺れ動く段階である。
5.	「心理的適応段階」は、障害を認めず、自分のできることを精一杯行おうとする段階である。

問 16	障害のある人の家族支援について、誤りを一つ選びなさい
1.	障害受容には障害者を支える家族や周囲の人々の理解と協力が必要である。
2.	障害のある人の家族への支援を行うには家族構成などの情報を把握しておくことが大切である。
3.	家族の精神的・物理的な介護負担の軽減のために障害福祉サービスを適切に利用することが必要である。
4.	私的理由でのレスパイトケアサービスの利用は認められていない。
5.	障害のある人の家族の悩みを一緒に考え、ともに模索する取り組みが必要である。
問 17	障害理解・障害の受容支援について、誤りを一つ選びなさい
1.	障害のある人の支援ではさまざまな専門家によるチームアプローチが必要である。
2.	障害のある人だけでなく家族への支援も重要である。
3.	障害は個人の問題ではなく、周囲の環境に大きく影響される。
4.	社会の側が広く障害を受容することを「地域的受容」という。
5.	介護職は障害について地域社会全体への啓発を心がける姿勢が求められる。
問 18	ＩＣＦに関する説明について、誤りを一つ選びなさい
1.	ＩＣＦの視点でみることで、例えば、認知症高齢者の場合、「心身機能・身体構造」のわずかな変化から、「環境因子」の阻害要因を把握することができる。
2.	「個人因子」に、肯定的側面と否定的側面を見出すことができる。
3.	「心身機能・身体構造」「活動」「参加」は、それぞれ相互作用がある。
4.	介護職は、環境因子に含まれる。
5.	「個人因子」には、阻害要因と促進因子がある。

問 19	理論に基づく介護について、誤りを一つ選びなさい
1.	理論に基づく介護とは、実際に利用者に提供される我流介護に表現される。
2.	理論に基づく介護では、生活支援技術の原則（方法・根拠等）を活用することが重要である。
3.	介護職は、我流介護にならないよう、OJTを通じた研鑽が求められる。
4.	生活支援技術とは、生活全体を支援するための技術としてとらえようとするものをいう。
5.	理論に基づく介護とは、個別支援のための介護過程に表現される。
問 20	生活のなかの介護予防について、誤りを一つ選びなさい
1.	高齢者の強み（ストレングス）を引き出し、自分の生活を自分の力でつくっていくようにする支援が、介護予防には求められる。
2.	介護予防の最大の焦点は、「一人ひとりの意欲を引き出す」ことである。
3.	生活のなかの介護予防には、「個々人の意欲の高まり」が大切になる。
4.	一人ひとりの生活意欲に対する動機づけは不要である。
5.	介護予防は、心身機能の改善や環境の調整を通して、高齢者等が生きがいのある生活および自己実現（QOL の向上）を図ることを目指している。

通信課題(課題解答用紙)

科目 9(項目 9-2、9-3、9-5)

問 1	人間の記憶について、誤りを一つ選びなさい
1.	知覚された情報を数秒から数分の間とどめておくものを短期記憶という。
2.	記憶が保たれる時間の長さによって、感覚記憶、短期記憶、長期記憶に区別される。
3.	人間の記憶の過程は、記銘、保持、想起に分けられる。
4.	覚えていたことを探し出す、検索することを、想起という。
5.	覚えた情報を貯蔵することを記銘という。
問 2	高齢期の喪失、喪失体験について、誤りを一つ選びなさい
1.	高齢期においては、それまでの自己像を自身のなかで変容させる必要はない。
2.	高齢期の喪失として、役割の喪失がある。
3.	喪失体験は、高齢者自身の自己意識や自己概念の変化につながる。
4.	高齢期の喪失として、心身機能や健康の喪失がある。
5.	高齢期の喪失として、社会的関係の喪失がある。
問 3	感情と意欲について、誤りを一つ選びなさい
1.	感情は、人の行動を導くことが最大の特徴であるということができる。
2.	恐怖の感情が湧くと冷や汗が出る、心臓の鼓動が速くなるなど、感情は身体に影響を与える。
3.	「共感」、「受容」のいずれも感情的な反応を示している。
4.	感情が高まっているとき、人は意欲も高まり、行動が活発になる。
5.	介護職のはたらきかけや言葉かけは、利用者の感情に対して行われるものなので、マイナスの感情を導き出し、意欲を引き出すためのはたらきかけや言葉かけでなければならない。

問 4	人体各部の名称について、誤りを一つ選びなさい
1.	太もものつけ根の部分を「鼠径部」という。
2.	胸部、腹部、背部、腰部を合わせて「体幹」という。
3.	肘から先を「前腕」という。
4.	肩から肘までを「上腕」という。
5.	太もものつけ根から足までを「下腿」という。
問 5	ボディメカニクスについて、誤りを一つ選びなさい
1.	ボディメカニクスの 7 原則は、介護技術に幅広く応用されている。
2.	大きな筋群を使うことで、腕などの細い筋肉や腰などの局所的な筋肉に頼らない介護動作となる。
3.	物体は支持基底面が広く重心が高いほど安定した状態である。
4.	いすから立ち上がるときに両足を引くのは、臀部から足底への重心移動を効率よく行うためである。
5.	物体の安定性は、「重心点の高さ」、「支持基底面の広さ」、「重心線と支持基底面の位置関係」という、三つの要素で決まる。
問 6	バイタルサインについて、誤りを一つ選びなさい
1.	バイタルサインには、呼吸が含まれる。
2.	バイタルサインには、血圧が含まれる。
3.	バイタルサインは、容易には測定できないものである。
4.	バイタルサインには、体温が含まれる。
5.	バイタルサインには、脈拍が含まれる。

問 7	骨・関節・筋について、誤りを一つ選びなさい
1.	関節は、骨と骨を連結し動きを可能にしている。
2.	筋肉は、たんぱく質でできており、たんぱく質の貯蔵庫としての役割がある。
3.	骨は、骨自体がカルシウムの貯蔵庫としての役割を担い、骨の中央にある関節腔では血液をつくっている。
4.	骨盤は、脊椎を通じて上半身の体重を受け止め、下肢を支える役割を果たしている。
5.	骨は、身体を支えるために、硬く、折れにくい構造になっている。
問 8	環境整備について、誤りを一つ選びなさい
1.	車いすを使用する人がいる場合、洗面台の傾斜鏡の鏡の位置、見える角度などの確認は不要である。
2.	車いすを使用する人がいる場合は、玄関や庭では、スロープや段差解消機を活用する。
3.	車いすを使用する人がいる場合は、玄関から車道への通路途中に平面部分を設けたりして、車いすが勢いあまって、ドアや門扉に衝突しないような対策が必要である。
4.	高齢者や障害者の寝室は、1 階で掃き出し窓がある部屋が理想である。
5.	居室数が少なく居間と寝室が兼用の場合は、衝立やスクリーンなどを活用し、居間での家族のくつろぎや高齢者や障害者の安眠に配慮が必要である。
問 9	環境整備について、誤りを一つ選びなさい
1.	車いすを使用する場合は、寝室や個室などの出入り口の幅は、70cm 以内であればよい。
2.	浴室では、シャンプーや石けん類は、使用するものだけをバスケットなどに入れて浴室内に置く。
3.	部屋のベッドから見やすい壁などに、書き込み可能なカレンダーや家族との思い出の写真などを飾るスペースがあるとよい。
4.	トイレなどの手すりの位置は、利用者に合わせて決める。
5.	ポータブルトイレには、暖房機能や脱臭機能がついているものもある。

問 10	高齢者の行動特性と起こりやすい事故について、誤りを一つ選びなさい
1.	普段の生活の場で思いがけない転倒をしやすくなる。
2.	速やかな行動によって小さな段差での転倒が増えるが骨折することはない。
3.	うす暗い場所では物が見えにくくなり、小さい音や高い音が聞こえにくくなる。
4.	思うように行動ができず失意状態に陥ってしまうことがある。
5.	認知症の方は時間帯によっては不穏状態に陥ったり、自分の居場所が確認できなくなるなどの様子がみられる。